

本報告書は2025年11月27日付で技術諮問委員会より提出された報告書に対して、NRRC所長より出した返信レターを参考までに原子力リスク研究センターにて仮訳したものです。正式な報告書は、英文版の原文のみとなりますのでご注意ください。

原子力リスク研究センター  
一般財団法人 電力中央研究所  
〒100-8126 東京都千代田区大手町 1-6-1

ジョージ・アポストラキス博士  
原子力リスク研究センター所長

2025年12月8日

ジョン・W・ステットカー氏  
技術諮問委員会 委員長

件名：技術諮問委員会 2025年11月27日付レター報告書「内部溢水 PRA ガイド」

ステットカー委員長

我々の「内部溢水 PRA ガイド (IFPRAG)」に関する研究活動をレビューして頂く中でのやりとり、および委員会から示された本質をとらえた見解に感謝申し上げます。また、委員会から「この IFPRAG における解析手法は、内部溢水事象のリスク評価における国際的な最良の実践水準と整合している」との結論を頂いたことについても感謝申し上げます。

NRRC は TAC の提言について、以下の通り回答する。

### 1. 試験的パイロット適用

我々は、試験的パイロット適用を実施するという TAC の勧告に同意する。まず、NRRC スタッフは代表的な PWR または BWR を運用する日本の電力会社と緊密に連携し、試験的パイロット適用を通じて NRRC の IFPRAG と日本の電力会社の現行の実践手法との技術的ギャップを特定する。続いて、その後、NRRC スタッフは IFPRAG 適用の実践的経験をまとめ、特定された技術的ギャップを解決するために必要な IFPRAG の改定を進める。

NRRC スタッフは試験的パイロット適用を通じて IFPRAG の有効性を継続的に実証する。IFPRAG を更新し十分な知見が得られた段階で、NRRC は試験的パイロット研究から得られた経験と教訓に基づく詳細な情報を TAC に提供する。

敬具

A handwritten signature in blue ink, appearing to read "George Apostolakis".

ジョージ・アポストラキス